

● 腐食性ガスの 雰囲気

腐食性ガスの雰囲気中使用する場合において、それがきわめて軽微なときには漏電しゃ断器の構造部品、および導体部品を特殊耐食仕様にし、さらに盤や箱などに入れて使用することも可能ですが、腐食性ガスが多量に発生している場所では防食形の保護構造のケースに収納して使用する必要があります。

したがって、腐食性ガスの雰囲気中で使用するものについては、腐食性ガスの種類などを前もってご連絡ください。

腐食性ガスの防食処理としては、一般につぎのような点を考慮しております。

- (i) 銅系構造部品（導電部、端子部も含む）はすずめっきを施す（通常、銀めっきを施すが、亜硫酸ガスなどにおかされるので、すずめっき仕様とする）。
- (ii) 鉄系構造部品は亜鉛めっき有色クロメート処理を施す。
- (iii) ばね類はなるべくステンレス線を使用する。なおピアノ線を使用する場合は有色クロメート処理を施す。

2. 取付け取扱い注意事項

(1) 銘板表示事項の確認

一口に漏電しゃ断器といっても多数の種類があります。たとえば、

電気方式および極数による区分……1 ϕ 2W, 1 ϕ 3W, 3 ϕ 3W, 3 ϕ 4W。

保護目的による区分……感電防止用か、漏電火災防止用か、即ち、高感度高速形か、中感度時延形か等。

使用条件による区分……屋内形、屋外形、可搬形等があります。

漏電しゃ断器の取付けに際しては、それぞれ用途に応じて適当と思われる漏電しゃ断器を選択し、取り付けられますが、その際使用すべき漏電しゃ断器が、用途に合わせて選択したものと一致しているか否かを銘板の表示事項によって確認してください。

(2) 回路電圧の確認

定格電圧の80～110%の範囲で特性を保証することをJISでは規定しています。この範囲外で使用した場合、たとえば、100V用を200Vで使用すると、内部のサージ吸収用素子が破損します。逆に200V用を100Vで使用すると、漏電しゃ断器が動作しないことがあります。

また、テストボタンで動作確認をし、動作しないでそのまま押し続けると、内部コイルを焼損する場合があります。したがって回路電圧の上限及び下限はJISで規定された範囲を超えないで使用してください。

いうまでもなく、漏電しゃ断器の定格電圧と回路電圧が一致しているか否か銘板などにより確認する必要があります。